



報道機関 各位

東北大学災害科学国際研究所

シンポジウム 歴史が導く災害科学の新展開Ⅴ —文理融合による1611年慶長奥州地震津波の研究— 開催のお知らせ

2021年12月4日（土）、東北大学災害科学国際研究所ほか主催のシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅴ—文理融合による1611年慶長奥州地震津波の研究—」を開催いたします。つきましては、本件について広く周知いただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等でご紹介くださいますよう、お願いいたします。

【概要】

今から410年前、東北地方太平洋沿岸で地震・津波が発生し、「慶長三陸地震津波」と呼ばれ、昭和三陸地震津波と同程度の規模とみなされてきました。それから400年後の2011年に東日本大震災が発生したことを受け、1611年の地震津波の被害規模が東北地方太平洋沿岸、かつての“奥州”全域に及ぶことから、名称を「慶長奥州地震津波」と改め、歴史学・考古学・地質学・工学といった様々な分野の研究者が再検討をおこないました。歴史資料の再検討、新たな津波堆積物の発見等の情報をベースにした津波シミュレーションにより、従来の想定されていた地震規模を上回る、巨大地震としての実態が、この10年間で明らかにされつつあります。

本シンポジウムでは、慶長奥州地震津波の発生から410年、また東日本大震災の発生から10年が経過したことを受け、歴史学・考古学・地質学・津波工学の研究者が結集し、それぞれの視点から慶長奥州地震津波に関する最新の研究成果を報告します。さらに、これらの研究者によるパネルディスカッションを実施し、学際的な視点から議論することにより、文理融合による学際的研究の視点による新たな慶長奥州地震津波像を描き出していきます。

【開催概要】

イベント名：シンポジウム 歴史が導く災害科学の新展開Ⅴ
—文理融合による1611年慶長奥州地震津波の研究—

日時：2021年12月4日（土）13:00～17:00

場所：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール（80人まで）

+ Zoomによるハイブリッド開催

次第：

○研究報告 (13:10～16:00)

- ・蝦名裕一 (東北大学災害科学国際研究所)
歴史資料にみる慶長奥州地震津波
- ・柳澤和明 (宮城県教育庁文化財課)
多賀城市域における慶長奥州地震津波の被害
- ・川又隆央 (岩沼市教育委員会)
岩沼市高大瀬遺跡で発見された慶長奥州地震津波堆積物の様相について
- ・後藤和久 (東京大学大学院理学系研究科)
地質記録から見た慶長奥州地震津波:現状と課題
- ・石澤堯史 (東北大学災害科学国際研究所)
宮城県内における慶長奥州地震津波の堆積物について
- ・石村大輔 (東京都立大学都市環境科学研究科)
岩手県山田町の津波伝承に関する地質学的検討
- ・西村裕一 (北海道大学大学院理学研究院)
北海道における慶長奥州地震津波の痕跡
- ・今井健太郎 (海洋研究開発機構)
慶長奥州地震の津波波源と規模の再評価
- ・菅原大助 (東北大学災害科学国際研究所)
仙台湾および三陸海岸における慶長奥州地震の津波堆積物の数値シミュレーションによる検討
- ・佐藤賢一 (電気通信大学情報理工学研究科)
宮城県を事例とした災害間期の防災意識について

○パネルディスカッション (16:00～16:50)

- ・コーディネーター 今村文彦(東北大学災害科学国際研究所)

【一般・メディア参加方法】

災害文化研究室ホームページ (<https://www.saigaibunka.jp>) または右のQRコードより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご記入の上、お申し込みください。

*取材対応をご要望の方は、投稿フォーム備考欄にその旨をご記載ください。



主催:東北大学災害科学国際研究所、歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点、指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点災害人文学研究領域

共催:人間文化研究機構、神戸大学大学院人文学研究科、地震・火山噴火予知研究協議会計画推進部
会史料・考古部会

【問い合わせ先】

東北大学災害科学国際研究所 災害文化アーカイブ研究分野
蝦名 裕一 Tel:022-752-2146 Email:ebin@irides.tohoku.ac.jp